

学術を取り巻く状況の変化と学術会議をめぐる論点 (案)

学術会議をめぐる論点

学術を取り巻く状況の変化

科学が社会、国民生活にもたらす影響力の拡大

社会への貢献をより意識した活動の重要性

科学の知見をもって解決すべき地球規模の課題の増大

国際的な研究活動への参画の重要性

東日本大震災、東電福島第一原発事故の発生

緊急課題への学術の貢献に向けた活動の重要性

研究不正事案の多発、社会問題化

学術コミュニティの自律的な取組促進の重要性

Ⅰ 位置付け、役割

- (1) 「科学者の代表機関」として求められる役割
(最近の学術をめぐる変化を踏まえ、強化すべき役割、新たに担うべき役割、総合科学技術・イノベーション会議等との関係)

Ⅱ 活動のさらなる活性化に向けた課題

1. 科学者コミュニティの代表機関としての機能強化

- (1) 科学者の総意の反映 (科学者間ネットワークの強化)
- (2) 学協会との関係 (連携のあり方等)
- (3) 若手科学者の意見集約・反映
(意見集約・反映の仕組み、若手科学者を取り巻く課題への対応等)
- (4) 会員・連携会員のあり方 (選出方法、活動のあり方等)

2. 提言機能及び社会への発信機能等の強化

- (1) 政府との関係
(総合科学技術・イノベーション会議との連携による政策課題把握等)
- (2) 社会、国民との関係
(広報体制の強化、学術会議の活動に関する情報発信、地域との連携等)
- (3) 産業界との関係 (産学官連携において果たすべき役割等)
- (4) 社会的な課題、政策課題への対応
(課題への迅速な対応、緊急事態における活動等)

3. 我が国を代表するアカデミーとしての機能強化

- (1) 世界の科学者コミュニティとの連携強化等
(戦略的な交流活動の展開等)
- (2) 国際的な学術活動への積極的参画 (地球規模の課題への対応等)
- (3) 世界に向けた発信力の強化
(日本における国際会議等の開催、英語による発信力強化等)

Ⅲ 組織・構成等

- (1) 組織のあり方 (設置形態、所在地等)
- (2) 予算、事務局体制 (広報体制の充実等)

長期的な流れ

十七年改革以降の出来事